諸用附會案文

一冬

208
167

国立国会図書館　　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

諸用附會案文

全一冊

[illegible]

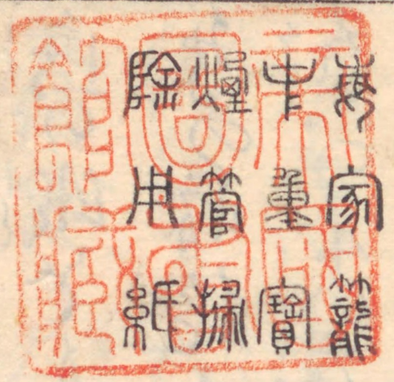
[illegible]

[illegible]

208
167

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

諸用附會案文叙

鳥の跡をもて文字を書しらせ
ものの跡絶えぬ代々に伝り来る世人や
又栗の木の庭鳥を捉て学しむる
途も轍もなけれ故事を書名なし雑
子の名もなき手紙のきれ
ぬ

於乎神代の時
をとこ上のをとこを踏
仮名浮雲の姉
船仮名大勝乃八
義経父の尺牘八
鬼鈎鉤の手紙八

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

長くおさし法もるの一年啓上ハ冤の
時と倶に短し千の百千鳥
ふるおくれ乃書状を十返舎
主てのたてこの社毛を風の唱。五千妻の変
乃梅木に彫付たる彫のたてはるる。
与のたゝ松なほ。おたてたる年年

揃て。のんよりよい変事なし
千時享和四癸歳沢子初春

浅葉庵音芳識

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

諸用附會

凡例

一此書ハ紙屑籠の用を悦し免番扱筆の基のいとを用ゼんが為ニ作り蓋弘法のいろハ四十八文字ニ僧陪して云野八十のしを習ふて些ニ文字のをなとなきものと信て完全ニ成ること等を出ものニ若しらるものなり

一世ニ行るゆ用文素教あるいろの人ども天上ニ出ものを案文并地獄極楽鬼ケ島ニ妖怪変化ニ出へきを文事と記さぬ故ニ用ゆらざる文云なれハ都て人稀なり偖て文体を要く記ス

一巻中ニ有ものを案文の内天道ニ上ル年賀状雨乞の文云なとハ別て書ものなり

案文凡例

一先祖の佛ニなりうるを奠を文。亡霊ニ花菓の文なとハ四ツ入用出るものなり

一青状の対しなり。因縁の出ル。其外祝ての祝詞法式ニ頭書ニ委く記ス大塔宮ニ孔講の時定おかれし式法なれハ一向法ニ入ざるなり

一手形證文ハ書ニ世ニあるものあるとハ云ども化物屋ニ賣券状ニ成ハ八十形ニ八十男ニ妻ニ成上戸ハの手法とのせぶ子外諸書ニ出れる他文ニ切の文云委細ニ記ス

一永紙の文云と弦ニあるハ一ニ家ニの人自ニ案ニ文通の出来る工夫と記して室ニ

凡例終

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

上段書目

高野八十郎智六十之男
妾清状
上戸沼寺清状
極楽蓮華之右文状
猫殺屋敷賣券状
風神送手形
狐小判借用手形
書状封じ
同線香

下段同

天道様ヘ上る年頭状
日蝕御見舞之文
雨乞之文
雷神ヘ願状
お星様ヘ願之文
地蔵様ヘ願之文
極楽ヘ参る文
佛ニなりたいと願之文
幽霊指留之文

月之異名
色紙短冊之事
鶴の名
猫字づくし
饗斗包折形
無筆之文言
同宿名尽
生花指南
十露盤早割
茶経傳
恵海書状
星のかぞへ

離縁状之文
同乙姫病気見舞之文
握々ヘ之文
化物ヘ之文
野干之友達ヘ賀之文
神祭ニ参る人ヘ之文
崩之時入ヘ祝之文
六十之莫破ヘ賀之文
月夜ニ金を取られし人ヘ之文
鶯ニ油揚ヘ隠し人ヘ之文
江国ヘ参り猿しかりける
人ヘ渡し文

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

十二支絵抄
雨と初る哥
文字之始之変
筆之由来
墨之始之事
紙之由来
鬼の留手洗濯物之文
借金を断る文
本屋のかりるを断る文
七福神に呈する文
後編之書目

文字之由来

文字發は大唐の茶類

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

筆之由来

そもそも筆は左近丞殿初て制作。撰の木とかして。ぎサ巳又すみを切て柄をまげるのもせ。ヤそれハ筆ぎヤ稚へさい抵めてそどへイヤ重工丞久宮が編暦の時。よめるうさま

とてハすみもの山中ゑ水べ
ぎ毋やはく硯墨ハ拭ぎ
ぶかくよとてこれ毋て大く
そ去る筆なり

墨之由来

墨ハ北国炭上品なり。
熊野よりいづるもは伊豆
駿河ようもおるくいづる。
なかゝ。ヤイなこがうめ。その
炭のはてゝドやア稚へい。
をるまきのてゝぶハアをる
をとこのとくうそんなゝ
掘原源をま
おさづ
ゐさい

東川風
春日
山水
国酒

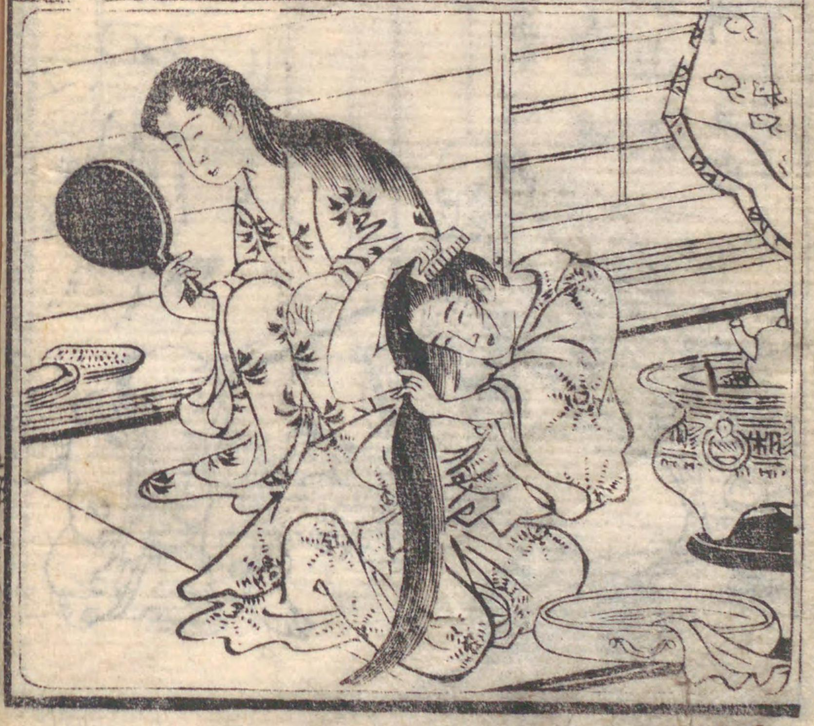
国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

紙くず屋

紙ハ唐土ハ行と割るのあまそぎとう紙ハをくなり。我朝ハ大こと紙を川ハて勅し紙とをく。又東叡の吉原ハ毎年七月十三日ハうとさとくなりうとよ

ゑげきまうぐいれそろへしあるかとるかちうをを元のうとうる



士農工商画扱

士

ある侍ハ登城ハ出ざるとあらるとはいりの「おに」のめを付「これうくとうるるとぬいて目さを目ハ「そろちうも付「これもうとうはいざーとまとうてるはに」ぬーうぞまうをーてすア

「これうーうげ」

やは　こぶぞ

伊呂波くず發端之図

弘法大師諸国を巡りあるし時。武蔵の国。神田の八ケ岳ハ。

店のりの丈姫ぐん気をとる見あひて。

なぜめていろは平八字とはいう。丈姫のりのとを希度ーあふ。そこで祝ふ者ハ

ろうーく中ものとて市ゲさえしも。

ぶくーくいろは平八字の切徳ろ。

い　いろのよ　林のむも　びてや

ろ　ろうぎを　ひろえで　ものを

は　たくの　おとこで　ついろ

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

商

ある男、物あのゆえなくこせをそそうある紙ろうへかりねろうとして
いつのべこせさらざらでまず大ふとれ
おきこしてひさやうのこせうンレ
どろぼうくいどおこされてとんで
出ずニどろぼううどるものなく
いまーこアレくむちべこせさて
ていたくあろけさーゆれらべば
十二あればさるーひごうよりや
どろぼうかもゆきまい

め	み	し
やもしるがわきれそて	そのうへあひるのどくまて	ちくがでしりでよるうちく
ゑ	ひ	も
そのいとのふろでやろうぐさろ	ひやりがそうがさうあうど	ゆくくやくそるもいや
せ	す	ん
とんろうとつきてさうとろる	ちろやぐうまてうせさゆく	りふまこのゆく出てかそうけくしく

書用無重宝記

とんびのひきゃくがトんうそまいろうきうそまいろ

とんびがトうそうきうそれいトうんやろうでおろうさ

あてうはうさ　うんぞうんうくうさ　まいろ

諸用附會案文

天道抑白手法狀

天道ろくのあんうげ陰何方義
清照學ごしゃうらん透明奉行ぞん
生涙　日輪抑為面目
和能　成中續法ぞん

手紙送文冬

てふあらいをうりの八
世のまぐさまぐさの
あんえ出さるなふ
そくくわれうの
ゆりなせられうの
をれば名のさくふて
さるるゆりしるえ
今てふをれとあめて
をのやくよろうめを
めつまをそこでこの出
ゆりつつまへどころ

うる世六十歳者
八年男子妻文快
一代仏名号中者
当仏を年六十八
業に成ら我ホ

仕作法
於初中后法
紙書調時

日蝕巻第文

[illegible]
[illegible]
[illegible]

一つの下仕紙来
えん中様と義式表
病持に御奉行
又十老義式
[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

雷れみう状

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

出雲国お舟市宮
変化の後生如

猫殺屋捕
壹両賞状

化物町猫町
二段所持之死
面目に猫の安
遊戯草生
寄る猫殺屋

変化猫小判
猫十匹壹両
糸を面生ず
化物猫分
ちゃんと出る
寄る化猫

お星様に宿稼ぎ文

益満出
明くまで
金銭星
孝行
御神酒

儲一生
洗ミ
西方
清浄

地蔵の霊に寄る文

祝ひ
地震
揮毫

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

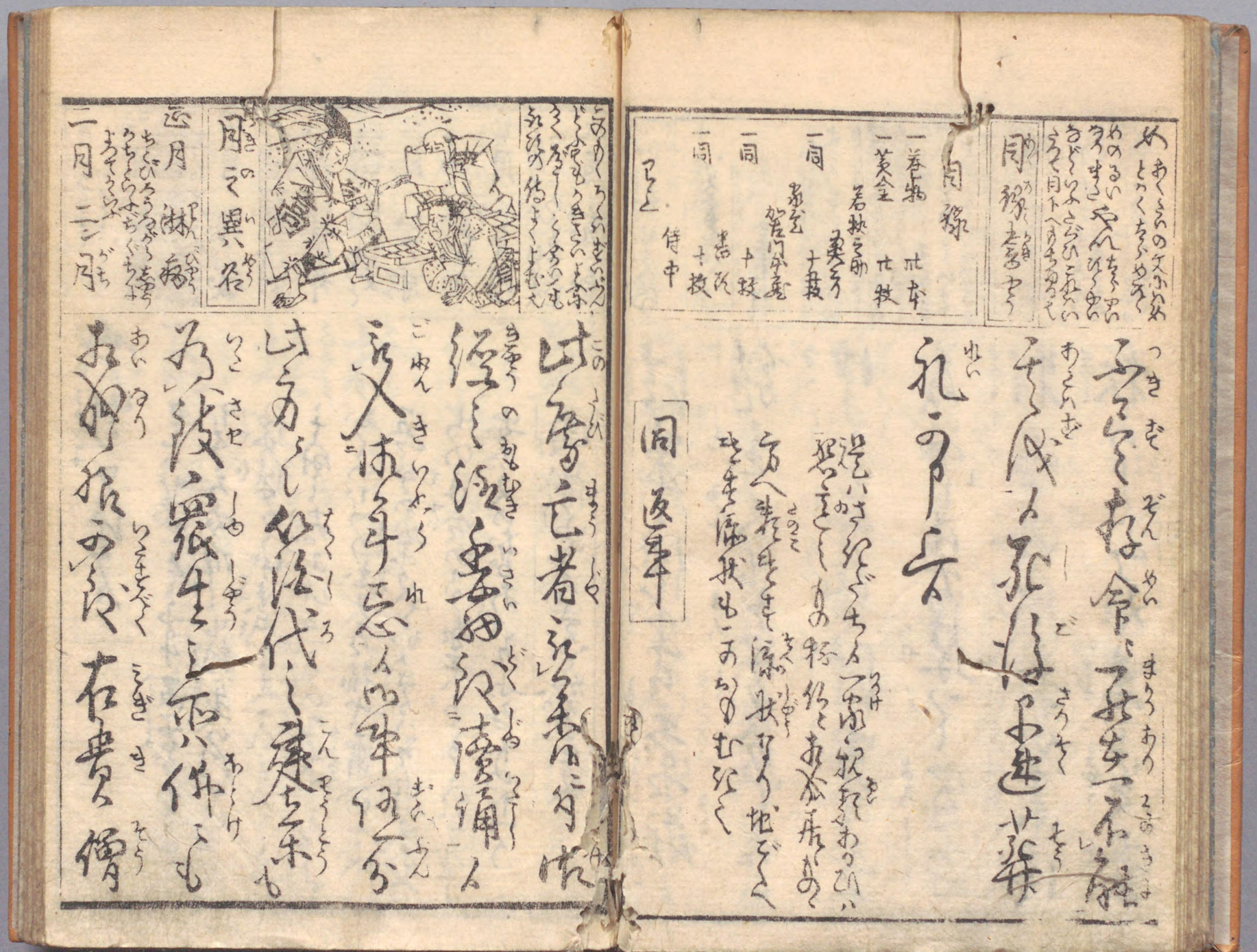
ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

行いをあらためていのちをしむべし

三月 桜花

二三月のさくらもよいあさのまくらめんのいろ

四月 卯花

とのの月ちやうのつくつくやくらんの

五月 清十郎

夜ごろ〳〵おきるとのふちぐちまちふ

六月 ひぐち月

まろくとのくりかりの

七月 七夕月

あのでぎつひのくらもでやるるもじ

八月 流連

[illegible]

[illegible]

同佛[illegible]

[illegible]

九月 [illegible]月

十月 神有月

十月 [illegible]月

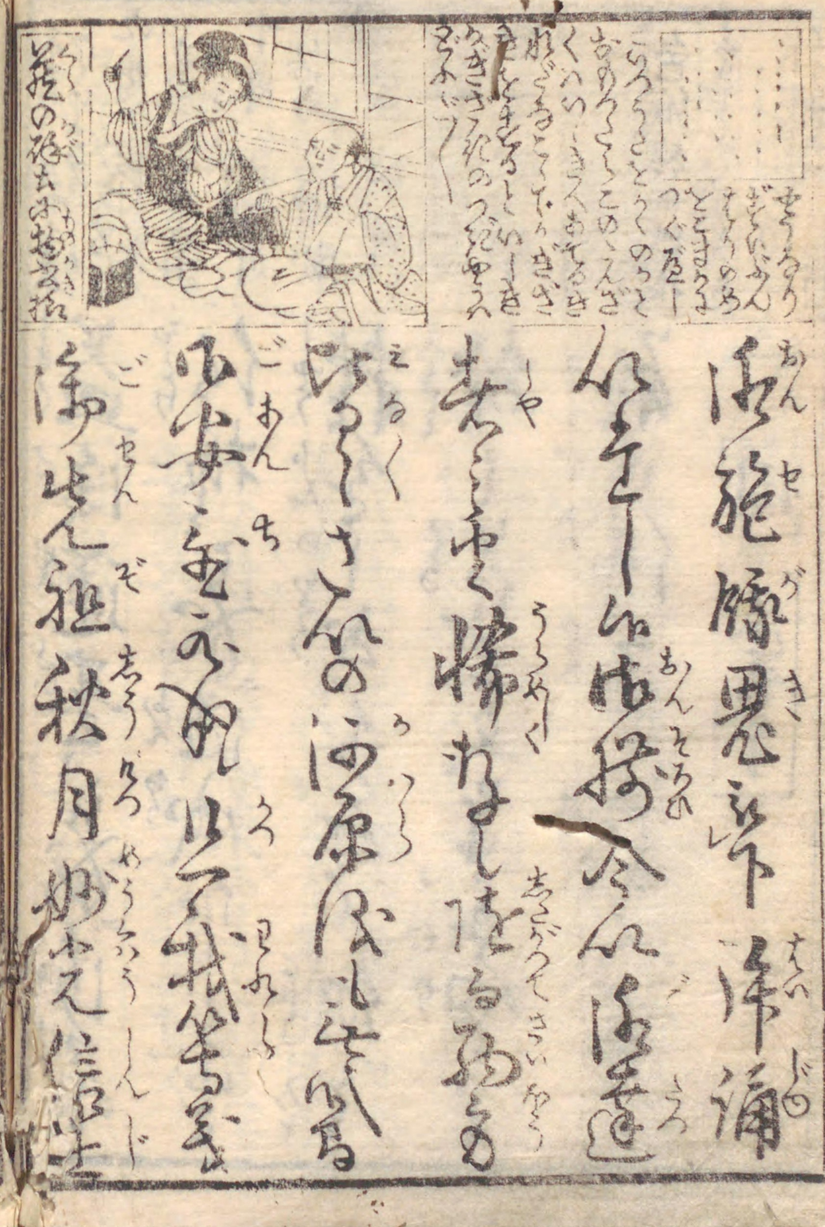
十二月 咲月

色紙短冊紙

[illegible]

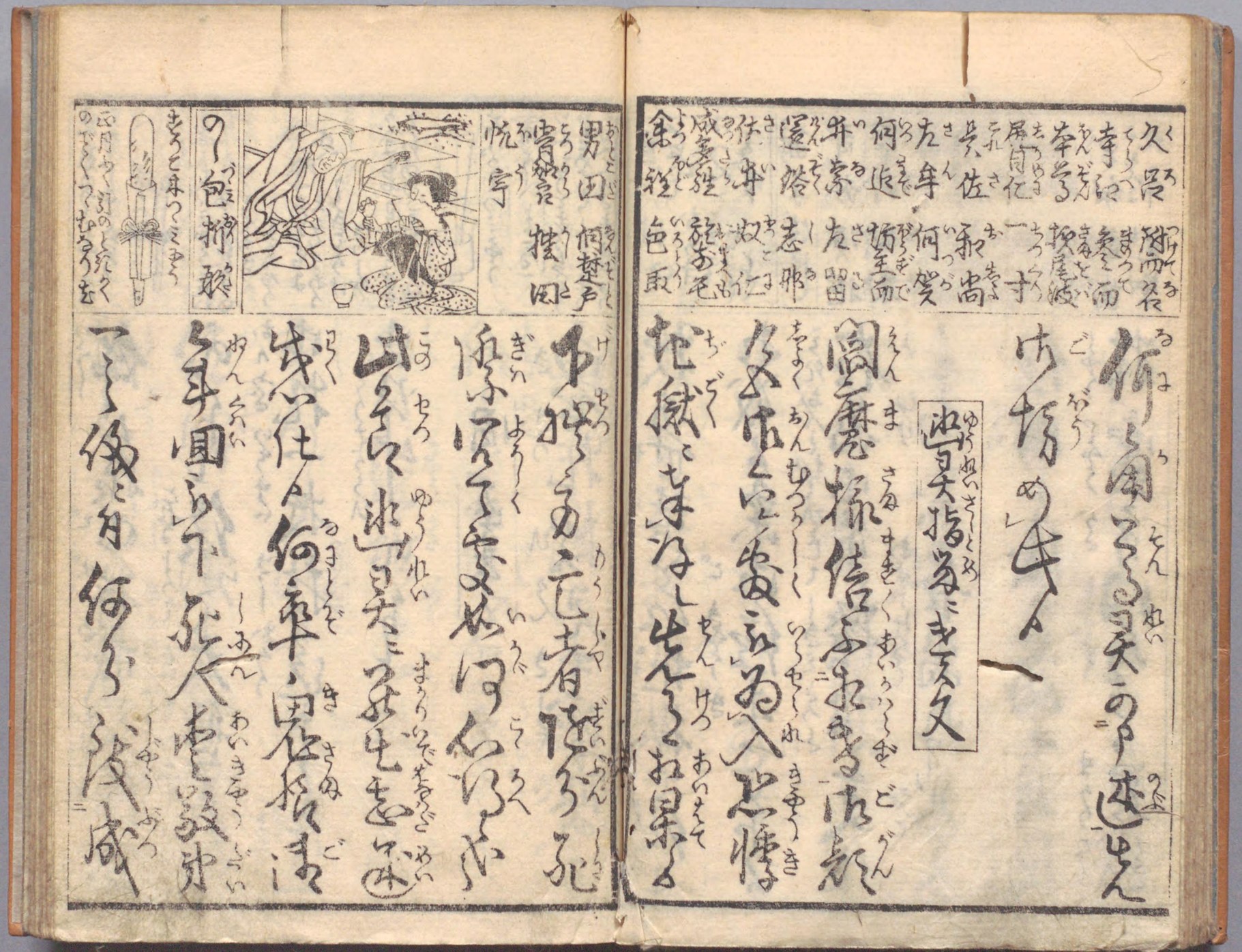
[illegible]

[illegible]



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

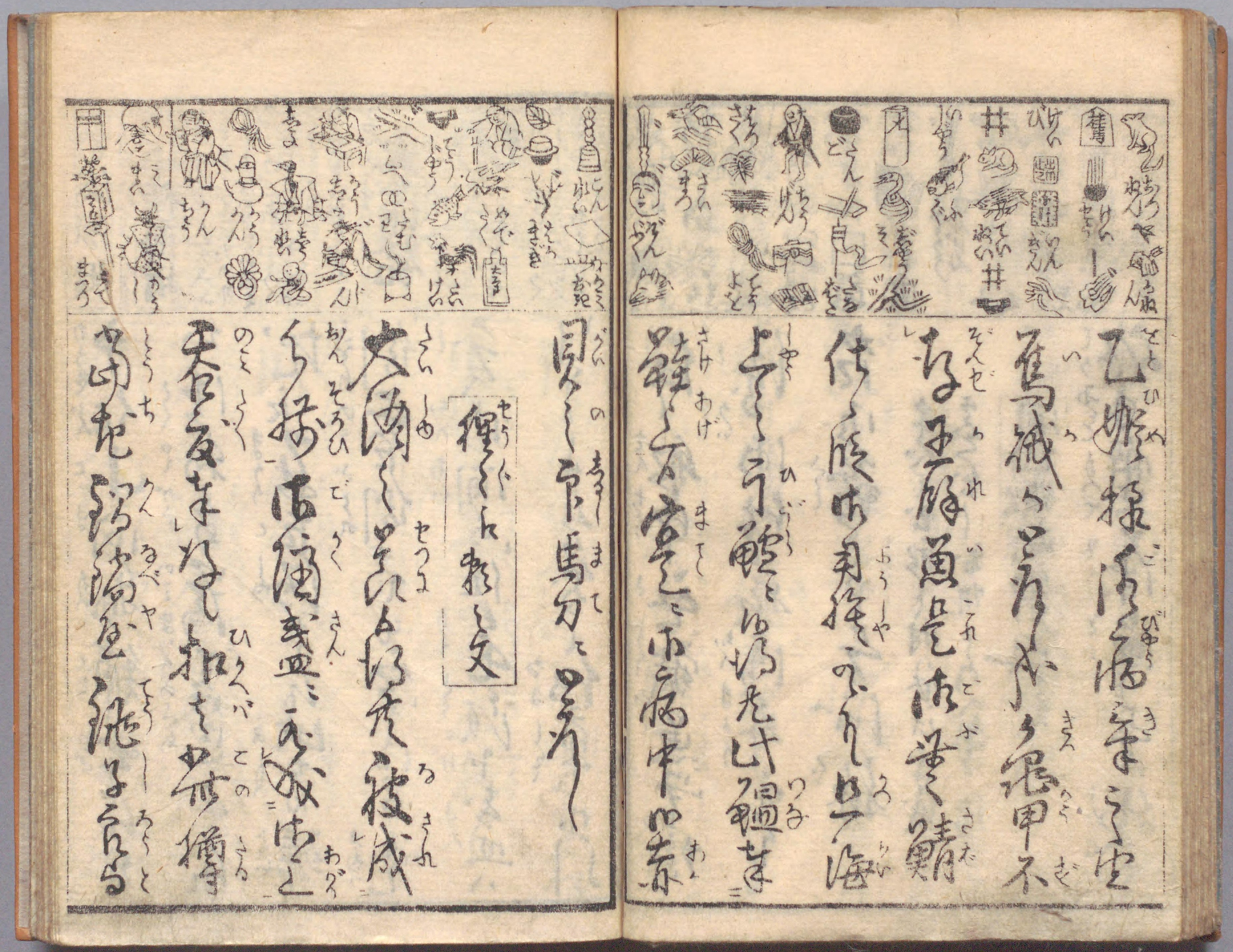
ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

筆濯儀按

小便無用

丸薬

帯ばくし

芝居百官名

関白 [illegible]
右大臣 [illegible]
左大臣 [illegible]
大学 [illegible]
弾正 [illegible]

采女 [illegible]
平馬 [illegible]
式部 [illegible]
将監 [illegible]
帯刀 [illegible]
数馬 [illegible]
左門 [illegible]
主膳 [illegible]
隼人 [illegible]
主水 [illegible]
兵馬 [illegible]

引文陳置て御手にいれし上を
横合分一寸出段手元拵ら
中有是しは系都太満も
御軍湯に及万分大笑を
右件返様仕居候

化物にまいる文

打付激雨し出来て咲
淋しく遊ぶも尽し兵児
打夜も玉あかりしあ俳ひと
何年に御合壬に隠至
臟なものを見て越候
内狸をかめし

生花指南

（なげ入）竹花　ひとつの重のいけ花ハえだのえのけるまなりいける

一重切　いけ花ゆうをきわめてあつかふ事も大ていなれども

このまるとそとくのぬいてあるい

布袋の花生

蓮子の花

どこでも花入ハおけそれを

生花指南の事

狐ト変化をかゆる文

一疋中入候狐変子狐様

此年正一位ニ御昇進ニ付

御先ニ馬蕃一疋ニ而御祝

三人参化狐千年之

淫又乙亥至参候

佐操された紫飯

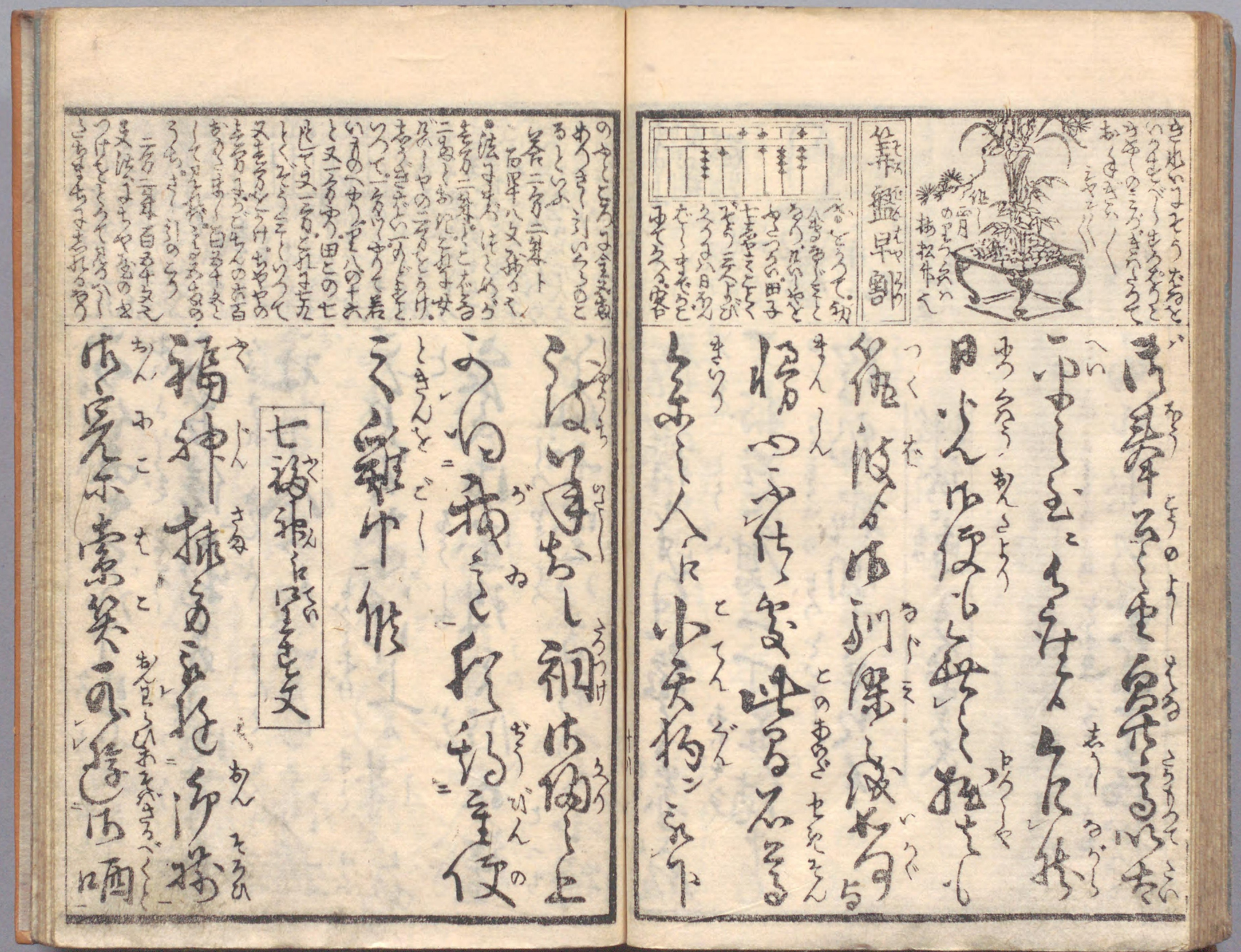
一掛豆腐一丁持参仕

相勤頂戴いたし候

狸ト遊ぶ人ニ遣ス文

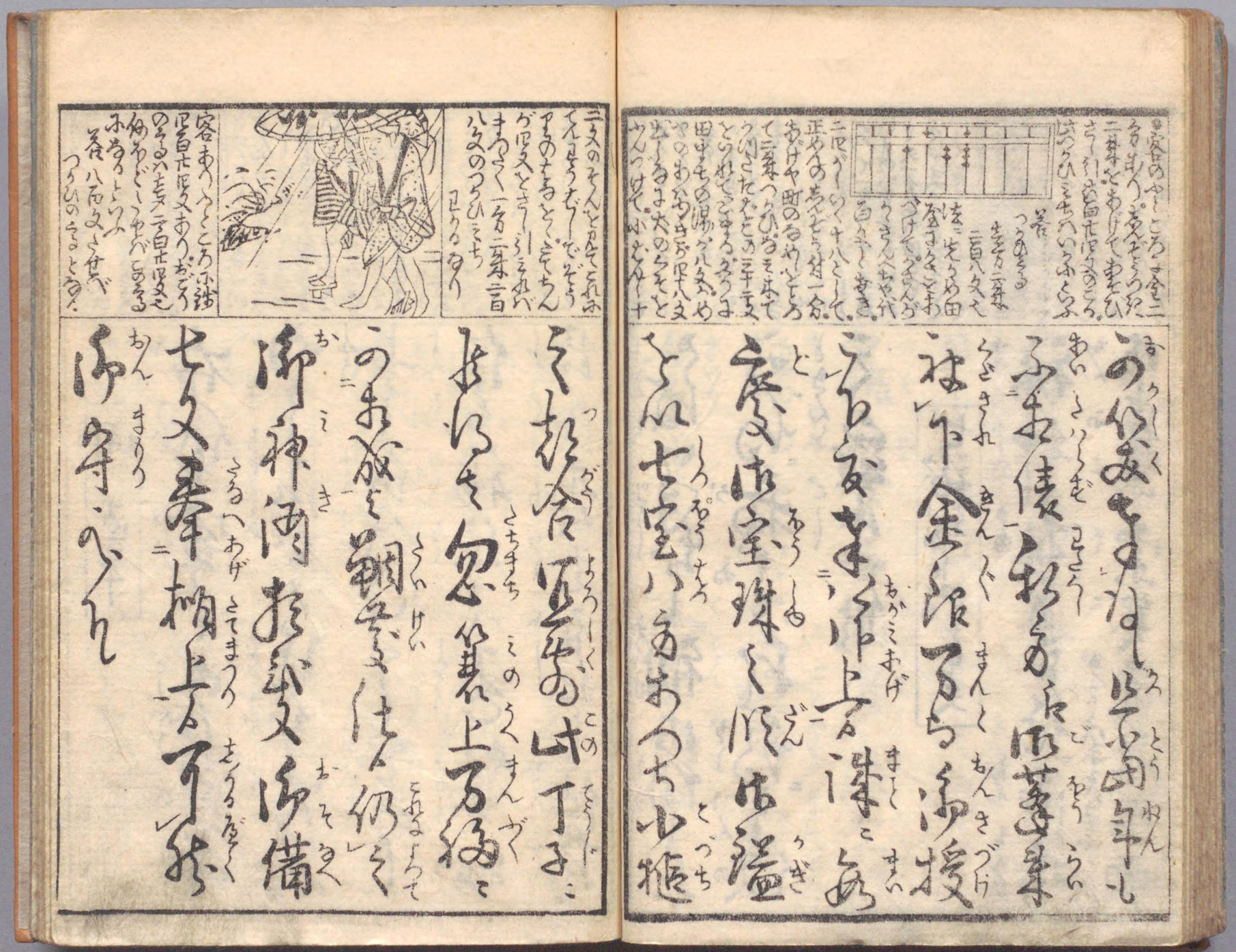
今度御自縛拾年

ねこ振り太通て物探



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



○宿のやしきころ寸法二
ろ間ほうそくとあらしてまそひ
さてりに百七十四文のころ
ぶつろひこまへいろふくふ

巻
つろのそる
生涯二百八文
二百八文と
法こせうめ田
屋きくとまの
づけてぐそんぐ
うきんへちや代
百ふく書き

二百ぐらく十八として
正月の為ごとう付一合
あけや町のるめりとろ
て二年つろひぐそまて
うりさたとの三十文
とうれてこまる。そうま
田中もの湯ゲ八文めや
のあらもぶ四八文
出るよ大のうそと
ちんづけて。かたん十

のかくしまなし四年九
あいさりぐ
ふ年借ものに四蔵業
らどきれ
ねや金紙百ら浦授
こ百文まの上方漆こ為
と
長崎室珠く四出溢
ちん七宮八為あつち少姫

宿のやしきころ寸法二
ろ間ほうそくとあらしてまそひ
さてりに百七十四文のころ
ぶつろひこまへいろふくふ

巻
つろのそる
生涯二百八文
二百八文と
法こせうめ田
屋きくとまの
づけてぐそんぐ
うきんへちや代
百ふく書き

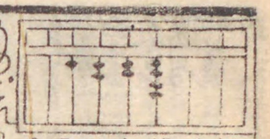
二百ぐらく十八として
正月の為ごとう付一合
あけや町のるめりとろ
て二年つろひぐそまて
うりさたとの三十文
とうれてこまる。そうま
田中もの湯ゲ八文めや
のあらもぶ四八文
出るよ大のうそと
ちんづけて。かたん十

三文のそんとかてこれは
イルコうむ。でそう
アもの十ろとそ。そちん
ゲ四文とさ一ぐうこれば
まろさく一ぐ二年二百
八文のつろひこちち
コとろる。ろり

客あり。ろころ不銭
四百七十四文ありおこう
のそるハ七十二百七十四文と
仏ろぐしこれば。ろこる
不ろるよりの
巻
八百文させべ
つろひのそるとろ。

そ都合四百七十四文
まろそ勿論上方ろ
このあ茶そ朝茶はそ仏そ
御神酒お茶御備
七文年柄上方
御年のべそ

法よりあつまてくまうぶ
つくめたるを又
酒のつきんぐ
りしんとして
えぶいさめ名



かのそれもさるのいの刻
きんぐりのもんと二ヲ又
そうひ又ちやびんが
さるちんと云又そう
ひこれよりのるを
でのんざあまざけと
さるめのけゆ死ざえ
ごうとりれて古ヲ又
とそうひこのりのふ
せいとうけてこれべふ
ところのにるをにく
さ引てのこう
こいるを又　るにく
法よりにるの代二百
文をのれて八ヲ又るを
くるるう

同　五年

布袋寧く所異所
ねるれ永ちん恵大黒
上く此代いくをのし
伝る福徳く更賀物
長く寿をるにく俳茶

妙菓秘傳

○巳と変る法
戌の年戌の月戌の
日戌の刻より生生の
女の生きもとう
おろし血筋のも
髪と合し後まべ
勿論まめと変ど
もらぶの老人と寄
三千石龍の婚りと
いみ芝居狂言ホ
つんくう

あの送ろん陳ん玉鉢を
同四ろ変米河内を
恵比寿ろ蔵ろ沢

蔵く嫁入を変ま文

えん魔ん晩ろ蔵子坂市平伍
蔵ろ仏げん云伍ろ毛ひ深ん

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

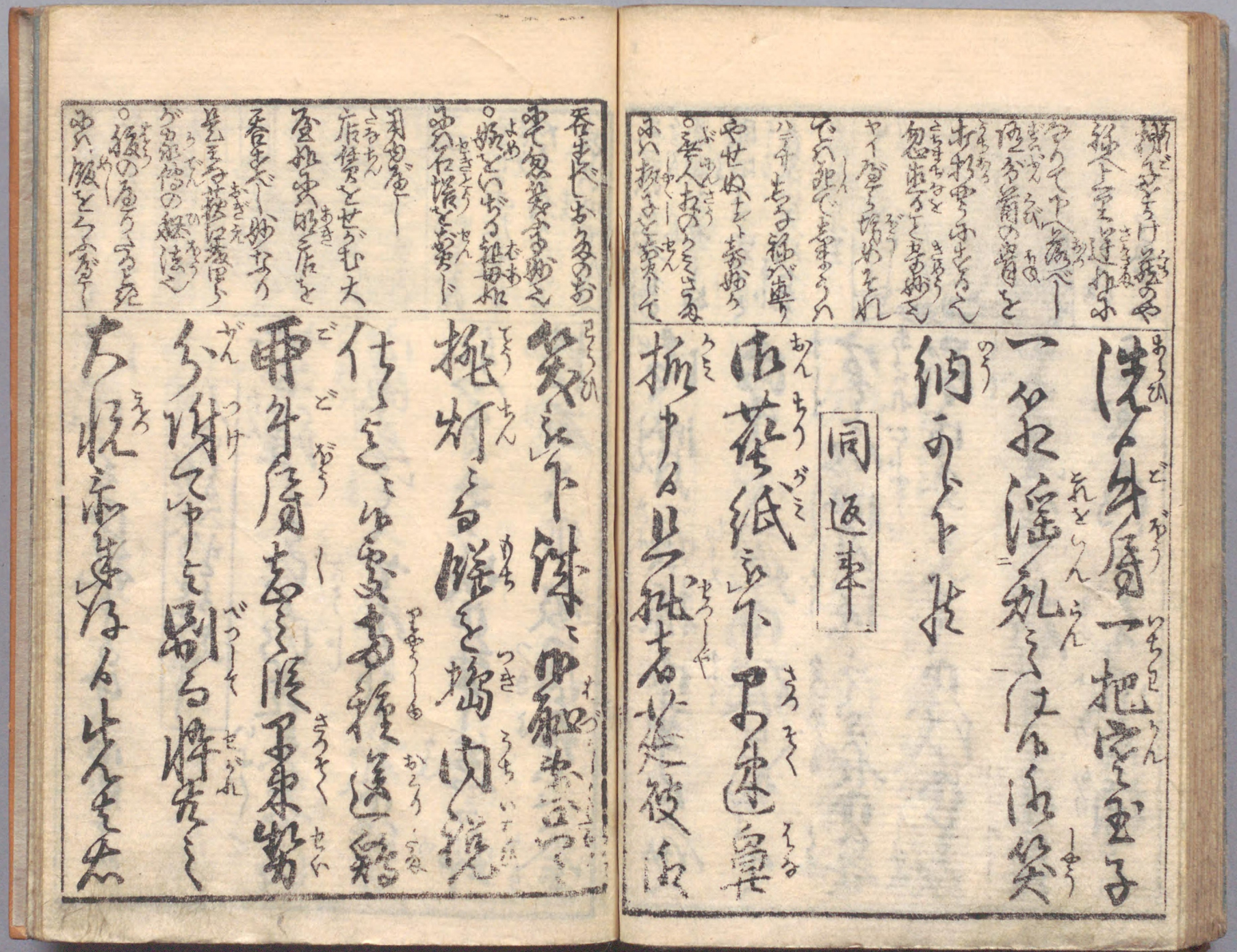
○男子出生の法
ふき女糸のいと
血とくうふこれと
用れべきこやうの
男子書つしやう
まるう妹脊山
ふあきこうう
○眼病の地菜
己の手の男の生血
と共生姙と合用
恵ぶ物あ汁井水
ろ命が傳ろう

猪家を拔き蠶家を
仮拵肥を換人信
廿日斗に作り先繭そ
一欠年上人卵四蠶作
まし戸を
六十三廿処彼を加ろ文

又一法ま鶏の
玉燒と煮べし初
眼明ろふろく
吉原の大門出ず
家傳ナ也

○馬糞と蚤を法
先〈の赤ろ母ふ

清閑取掃中事ろ使
六十三廿処彼を加ろ文
家伝腎虚ろ長中養
取実ろ茂中義
物ま丸有屋敷
ろ元人伝先ま風呂掃ろ



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

月夜と父母と人の子へ書きそれ文

門口に乳中に米と

茶灌に長柄杓に

竈に茶碗に

鉢に茶碗に茶釜

呂鍋に作板に釜

中板に茶釜

茶碗に茶碗

長柄杓に

杓子に中に右に

角に五徳に

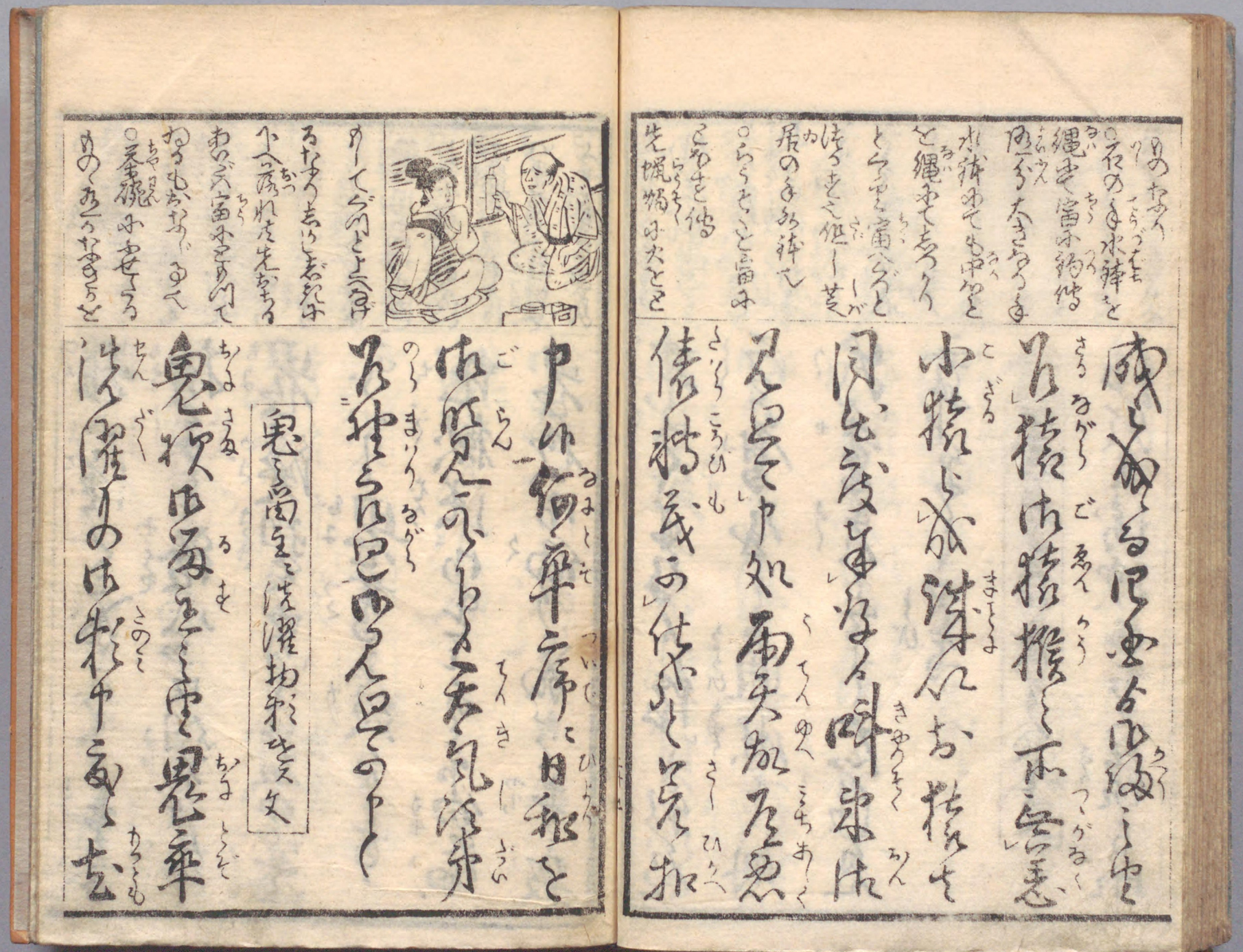
国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

○水木おれば猿
是は山の奥く猿
の下へ墨ゆて筆を
つけるとはり八くも
山まつよりふる

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

あてる法
是八湖生徒十象が
あるなるの物も
茶碗は世おぼえ
この内ふれのあるか
なれりとゆとあり
ゆへのそもそも茶
碗の内ゆへ物も
とつぶしあると
きゆへ
いまだ
ふせてきたいさの

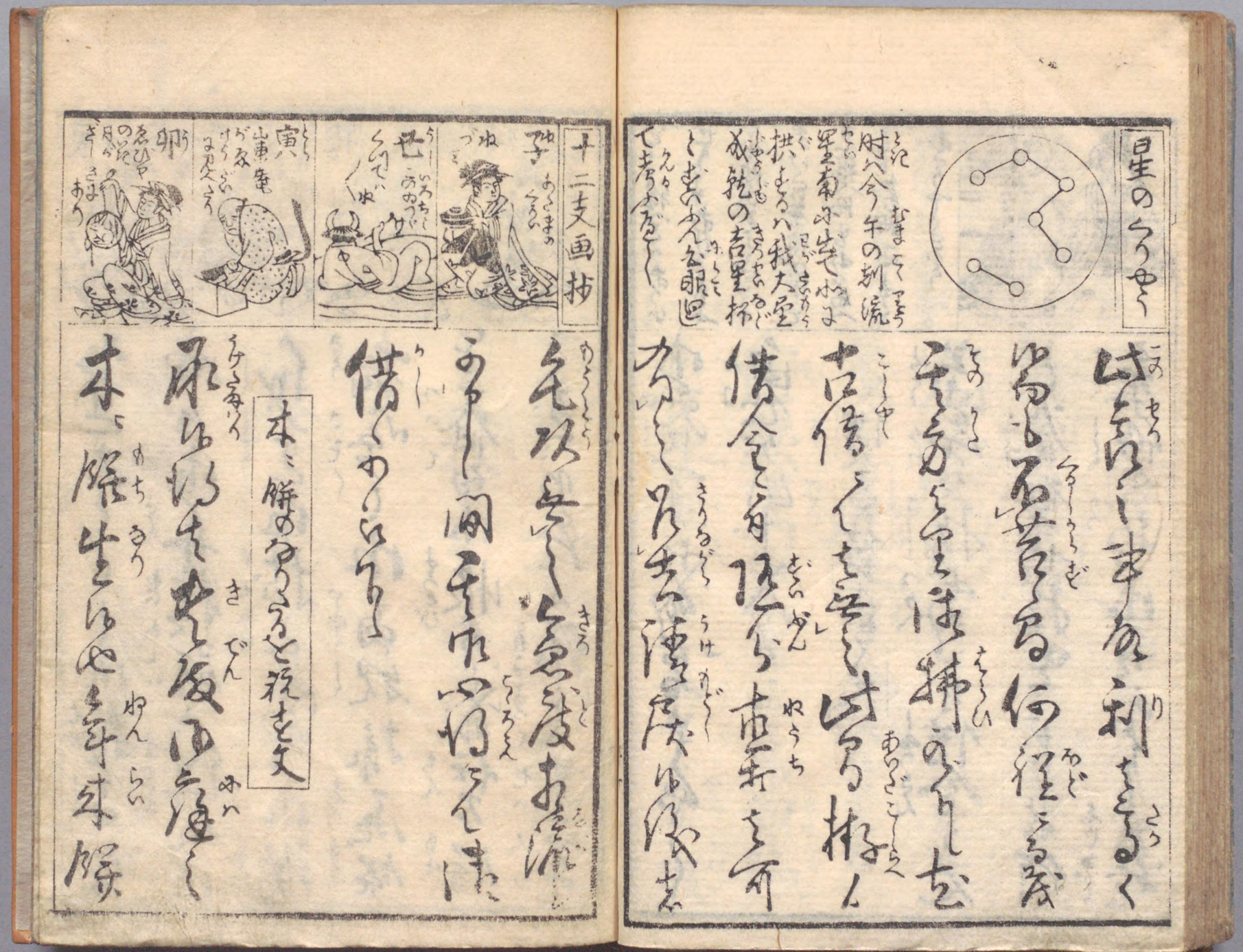
粗ハ海くらがの下壹子
拾ふ〻〻拾ハ合に弱ケ牛
鬼漆弱者ハ〻〻ハ松田寒
ゆへ〻〻〻〻〻〻鬼蕾〻級付〻〻
化獄法ハ〻〻〻〻〻〻〻〻
鬼獄法ハ〻〻〻〻〻〻〻〻

とナニ種〻とがあつい
せうゆやあけ〻〻〻
い茶碗のそこぶり
あけ〻〻茶碗の中と
見種〻ゆもある〻
ナシト考ゆ〻〻
あるゆ〻〻〻〻

中茶碗ハ〻〻〻〻〻〻〻〻
鬼がゆ入ハ
借金と貸ふく文
尚考る指支有借金ハ人
と資有せ指支ハ中ハ何
乗仕ハ〻〻〻〻〻〻〻〻

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用



星のうゆき

十二支画扇

本ゝ解の字うらと花を文

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

208
167

作會安案文大尾

書肆　江戸檜物町　上總屋忠助板

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167
ガラス使用

208
167

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用

国立国会図書館　諸用附会案文 208-167

ガラス使用